

板藍根は、ハーブで知られるホソバタイセイの根です。

葉は、青い色素を持ち、藍染めの材料として使われます。江戸時代の一般市民の足袋は藍色が多かったのをご存じですか？藍色の足袋は抗菌作用が強く、歩いて移動していた時代に必需品だったのです。

漢方での板藍根は、名前の通り「根」を使います。こちらも葉同様に抗菌、抗ウイルス作用があります。インフルエンザが流行る季節になると、お茶や飴など様々な剤型で店先に並び、人気の生薬です。感染症の予防法の一つとして、板藍根をスープで美味しくいただきましょう。

紫雲膏は、江戸時代の名医“華岡青洲”が編み出した、皮膚疾患に万能の軟膏です。

ひび、あかざれ、しもやけ、魚の目、あせも、ただれ、外傷、火傷、痔の痛みなどに、常備できると安心です。

紫根や当帰など女性に嬉しい生薬を使って、現代にマッチした使いやすい軟膏を作ります。

日時:12月19日(土)10時半~12時

場所:ヴェーナースメディカルハーブラボ

参加費:3500円

●お申し込み・お問い合わせ

電話:03-5699-3280(平日10時~17時)

<https://www.venurse.com>

